

Tennoji High School Attached to OKU



大阪教育大学
附属高等学校天王寺校舎

令和8年度



自由・自主・自立の精神と実践の力を持つ人材の育成

教育目標

本校は「自由・自主・自立」を尊重する基本精神のもと、次の3つを教育目標として掲げ、これからの世界を担う生徒を育てています。

- 豊かな教養を身につけ、深く思考する力を育てる。
- たくましい心身をつくり、確かに実行する力を育てる。
- 魅力ある個性をのばし、しなやかな感性を育てる。

本校の歴史

本校は昭和31（1956）年4月1日に、大阪学芸大学の附属高当初1学年2クラスで始まりましたが、昭和37（1962）年に各年より4クラスに拡大しました。昭和42（1967）年には大学名学部附属高等学校天王寺校舎に名称変更、さらに平成16（2004）年、大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎となって現在に至っています。

本校は創立以来、生徒の自主性や主体性を尊重する校風のもと、知的好奇心を育てながら幅広く学問の基礎を学ぶ場として、また生徒同士、教師と生徒が互いを信頼しあいながら成長していく場として発展してきました。多くの個性的な卒業生が、社会のさまざまな場面で活躍しています。



学びのもり

ごあいさつ

本校は、開校以来、大阪教育大学附属高等学校として、理論と積み重ね、その成果を広く社会に還元してまいりました。長い歴史と伝統の校風は、本校の教育の礎であり、生徒一人ひとりの主体性です。

現代社会は、急速な科学技術の進展やグローバル化、環境問題、測困難な課題に直面しています。このような時代に求められるだけでなく、自ら問いを立て、本質を探究し、多様な他者と協働しな力です。未来を担う若者には、確かな学力に加え、高い志と未知に挑戦する力が必要です。

本校では、基礎・基本を重視した質の高い授業を土台としながら育課程の中核に据えています。SSH（スーパーサイエンスハイスク）や研究機関との連携のもと、科学的思考力や課題発見・解決能力、ます。また、自然科学分野のみならず、人文・社会科学を含む幅広い学問の本質に触れ、知への情熱を深めています。

一方、本校の教育は、学習活動のみにとどまりません。「附高祭」や「音楽祭」をはじめとする学校行事は、生徒自らが企画・運営しています。生徒たちは、こうした主体的・協働的な活動を通して、自主自立の精神を培い、他者とともに社会を築く力を身につけていきます。

本校は、伝統を大切にしながらも、常に新たな教育の可能性を切り拓く学校であり続けたいと考えています。ここでの3年間で、生徒一人ひとりにとって、知性を磨き、人間性を深め、自らの未来を切り拓くかけがえのない時間となることを願っています。

高い志と知への情熱を抱き、未来の社会に貢献しようとする皆さんの入学を心よりお待ちしております。

実践の両面にわたる教育研究を史と伝統の中で培われてきた自的な学びと人格形成を支えています。

価値観の多様化など、複雑で予は、既存の知識を受け取るだけでなく新たな価値を創造していくの課題に果敢に挑む勇気が求め

ら、探究的・横断的な学びを教クール）事業においては、大学論理的表現力の育成に努めてい広い探究活動を通して、生徒た



大阪教育大学附属高等学校天王寺校舎
校舎主任 大久保 宣明

本校の特色

- 1. 大学の附属学校として**
本校は大阪教育大学に附属する高等学校として次のような使命を担っています。
〈研究学校〉大学と一体となって教育の理論および現場の教育の実践に関する研究を行います。
〈実証学校〉教育研究の結果、到達した理論を実験・実施し、広く教育界の参考に供します。
〈実習学校〉大阪教育大学を中心とした学生の、教育実習の場となります。
〈現職教育学校〉大阪府立諸学校との人事交流等を通して、現職教員の再教育の一端を担います。
- 2. 学習指導**
学習の基本は毎日の授業です。
本校では専門性の高い教員が、創意工夫した授業を展開しています。実物に触れることを重視し、本物体験を積み重ねることで、実地と結びついた高い学力が育ちます。小規模校であることの特色を生かし、生徒の個性を尊重した指導を心がけています。
- 3. 特別活動・自治会活動**
実践に結びつく力を育てるには、多様な場面での活動経験が必要です。生徒の主体的活動である自治会を中心として、行事などの特別活動に取り組むことで、授業で身につけた力を実際に使えるものへと高めます。

科学のもり

本校は平成 21年度から、SSH（スーパーサイエンスハイスクール）の指定を受け、第三期では、「国際的に協働する文理融合型学習者の育成を核とした、学習者も参画するカリキュラムマネジメントの実践とその普及」をテーマに開発研究に取り組んでいきます。これまでの成果を踏まえ、学校独自の科目および海外研修を有機的に接続させた「科学のもり」プログラムを設置しています。

1 年生	2 年生	3 年生
ブルーフⅠ	ブルーフⅡ または 総合ブルーフ	アドバンスド・ブルーフ
ブルーフⅡ	科学英語	ブルーフⅢ
	アジアスタディー 〈海外研修・タイ〉	生命論
		環境論
		サイエンスアドベンチャー 〈海外研修・アメリカ〉

「科学のもり」プログラム

海外研修としては、姉妹校であるタイの Princess Chulabhorn Science High Schools Phatum Thani (PCHSH) と科学を通じた国際交流を行う「アジアスタディー」や、同じく姉妹校であるアメリカの Arkansas School for Mathematics, Sciences, and the Arts (ASMSA) と交流する「サイエンスアドベンチャー」を実施しています。姉妹校と本校、互いの学校を訪れる形で、ホームステイ等も通じて交流を深めています。また令和6年度からは、人文・社会科学系のアメリカ研修や、ASMSA への短期留学も実施しています。

このような授業・海外研修以外に、さまざまな分野の専門家を講師に招く講演会や、各種研究機関を訪問し実習や専門家の講義を受ける宿泊研修等を企画、実施しています。また、自分たちの研究成果を生徒研究発表会や各種学会、交流会等で発表し、評価を受けています。

- 「科学のもり」プログラムを通じて、
- ① 能力的にも人間的にも魅力のある科学者・技術者を育成する
 - ② 基礎・基本の重視とさまざまな教科での取り組みにより、幅広い知識と科学の基本を育てる
 - ③ 「科学への夢」「科学を楽しむ心」と生徒の個性と能力を伸ばすことを目指しています。



環境論



つくば・KEK研修



西はりま研修

はてしなき学問の思索 究めゆく真理の航路を いざ君と共に進もう

Tennoji High School
Attached to OKU

教育課程

教育課程表（令和9年度入学 72期生(予定)）

		◆1学年/29～30単位		◆2学年/29～30単位		◆3学年/24～32単位		合計単位数 / 82～92単位
国語	必修	現代の国語 言語文化	2 2	文学国語 古典探究	2 2	文学国語 古典探究	2 2	12
地理 歴史	必修	地理総合 歴史総合	1 1	地理総合 歴史総合	1 1			4
	選択					地理探究 日本史探究 世界史探究 (2教科まで)	3 3 3	(0,3,6)
公民	必修	公共	2					2
	選択					倫理	3	(0,3)
数学	必修	数学Ⅰ 数学A	2 2	数学Ⅱ 数学B	3 2			9
	選択					数学Ⅲ* 数学C 数学発展* (※の同時選択不可)	4 2 2	(0,2,4,6)
理科	必修	物理基礎 化学基礎 生物基礎 地学基礎	1 1 1 1	物理基礎 化学基礎 生物基礎 地学基礎	1 1 1 1			8
	選択					物理 化学 生物 地学 (2科目まで)	4 4 4 4	(0,4,8)
保健	必修	体育 保健	3 1	体育 保健	3 1	体育	2	10
	選択					体育	2	(0,2)
芸術	必修	芸術Ⅰ (音楽・美術・書道から1科目)	2	芸術Ⅱ (音楽・美術・書道から1科目)	1			3
	必修	英語コミュニケーションⅠ 論理・表現Ⅰ	2 2	英語コミュニケーションⅡ 論理・表現Ⅱ	4 2	英語コミュニケーションⅢ 論理・表現Ⅲ	3 2	15
外国語	選択					時事英語* 異文化理解* (※の同時選択不可)	2 2	(0,2)
家庭 情報	必修			家庭基礎	2			2
科学の もり	必修	情報Ⅰ ブルーフⅠ	2 1					2
	選択	ブルーフⅡ	1	ブルーフⅡ* 総合ブルーフ* 科学英語 (※のどちらかを選択必須)	1 1 1	ブルーフⅢ 生命論 環境論	1 2 2	(1～8)
H.R.	必修		1		1		1	3

(注1) 数字は単位数を示します。
(注2) 選択科目の()内は選択可能な単位数を示します。
(注3) 芸術は、音楽・美術・書道から選択します。
(注4) 1年次に「ブルーフⅡ」を履修した生徒のみ、継続して2年次も「ブルーフⅡ」を選択することができます。継続しての選択を希望しなかった生徒は「総合ブルーフ」を履修します。
(注5) 「科学英語」は、2年次に「ブルーフⅡ」を履修した場合に、必ず履修します。
(注6) 3学年では、地歴・公民から、必ず1科目以上履修します。最大2科目です。
(注7) 合計単位数は、ホームルームの時間数を含みません。

授業の特色

1. 通常の教科科目

特定の教科に偏ることなく、すべての教科科目を幅広く学習します。

基礎基本を大切にしながら、各教科分野の本質、学習や学問の本質に迫る内容を目指し、学ぶ喜びと楽しさを実感できる授業を目指しています。

2. 科学のもり

1年生では、全員が「ブルーフⅠ」を履修します。2年生以降の探究的な学習に必要な知識と技能を身につけ、課題解決のための基本的な力を養います。希望者は「ブルーフⅡ」を選択し、主に科学的・理数的な分野の課題研究に取り組みます。2年生も含めた研究チームを組み、仮説や実験計画の設定、実験と考察、発表活動に取り組み実践的に学びます。

2年生では、「ブルーフⅡ」(継続)か「総合ブルーフ」のどちらかを選択し、各自の興味・関心に基づいてテーマを設定して課題研究に取り組むことで、主体的な探究の力を伸ばします。また、「ブルーフⅡ」を継続して選択した生徒は「科学英語」も履修し、自分の研究内容を英語で表現することを学びます。

3年生では、全員が「アドバンスド・ブルーフ」を履修します。2年生で「ブルーフⅡ」を選択した生徒と「総合ブルーフ」を選択した生徒が協働し、文理融合的な視点を重視した課題研究に取り組みます。希望者は「ブルーフⅢ」を選択し、主に科学的・理数的な分野の課題研究に取り組んだり、企業や大学などで実際に行われている研究活動について学んだりします。「生命論」や「環境論」では、生命や医療、環境に関わる題材を通して現代的な課題に対する意見を形成し、その解決のための主体的活動につながる力を育てることを目指します。

3. 選択科目・学校設定科目・特別講座

3年生では、自分の興味や関心に沿って学べるように、多くの選択科目と学校設定科目を設けています。教科の学習内容を深め、主体的に学習する能力を育成します。

また放課後等に、通常の授業で扱うよりも高度な内容の学習に取り組む補充講座、課題研究や入試対策のための講座等も実施しています。これらには希望する生徒が参加します。

「ホンモノ」に触れる

本校では、たくさんの「ホンモノ」に触れ、じかに感じる経験をすることが、直観や判断の力、知的センスを伸ばすのに役立つと考えています。授業以外に各種の行事、体験活動やフィールドワークの場で本物に触れることで、心と体を鍛え、育てます。

【一例】・体育大会やマラソン大会は、多くの学校で行われている「運動会」ではなく、本格的な陸上競技場を使用して行う「競技会、記録会」です。
・遠足は本格的な登山を中心とした、「歩く」行事です。
・文案、能、古典落語といった日本の伝統芸能を、3年間でひと通り鑑賞します。美術館・博物館の展示も見学します。
・一流の研究者等を招いて講演会を開催します。



サイエンスアドベンチャー アメリカ研修



大阪府庁本館「正庁の間」での生徒によるコンサート



地学野外実習（貝塚市蕎原）



体育大会（ヤンマーフィールド長居）



教科横断授業（JAXA講演会）



生命論 ハンセン病療養所「長島愛生園」歴史館を見学

研修旅行

学校から遠く離れた地域を訪れ、非日常ともいえる北海道の壮大な自然や風景に触れ、当地の風土や生物、現地の方々の暮らしを通して、自らや社会について見つめ直す契機とする修学旅行プログラムです。行動範囲が広く、自由度の高い北海道という地の特性を活かし、生徒が主体的に活動計画を策定し、実践していく力を身につけます。



「すべての生徒に幅広い教養を」の理念に基づいたカリキュラム編成

本校では、芸術と科学のもりの科目を除き、2年生の終わりまですべての生徒が同じ授業を受けます。理系・文系といったコース分けやクラス分けはありません。3年生ではいくつかの選択科目がありますが、ホームルームのクラス分けには関係しません。すべての生徒に幅広い教養を身につけてほしいという理念のもと、様々な

分野の、より本質的な部分を探る学びを重視しています。様々な分野に触れることで、各自の個性や将来について改めて考えたり、生涯学び続けるための基礎を作り、どんな分野・場面にも対応できる柔軟性や適応力を育てることにつながると考えています。

誇りある自由と規律 伝えゆく叡智の学園を いざ君と共に築こう

Tennoji High School
Attached to OKU

生徒指導

本校では、生徒の自主性・主体性を尊重しながら、自主・自立の精神を育むことを目指しています。

教員は生徒との信頼関係を基礎に、生徒自らが学校生活における自分たちのあり方を考え、教員との協議も踏まえながら自分たちで決定し、活動するようにサポートします。その中心的な場になるのが「附高自治会」です。

各種の行事だけでなく、生徒の主体的活動はすべて、自治会を中心として組織されています。学校生活を豊かで充実したものにするために、自治会活動は極めて重要です。

三大自治会行事

○附 高 祭 ― 創造の喜び

舞台企画、模擬店企画など多くの企画を統合した、総合文化祭です。クラスや各種団体が一つになり、数日間にわたって行われます。

○音 楽 祭 ― クラスの一体感

選曲、編曲、練習を全て自主的にを行い、クラスごとに合唱を競い合う行事です。クラスの一体感が味わえる行事です。

○百軒徒歩 ― 新しい自分の発見

山の辺の道、飛鳥など、歴史的な街道を含むコースを 30時間近く歩き続ける伝統行事です。自然の中の道を、また歴史や文化に触れながら一昼夜歩くことを通して、自分自身を見つめ直し、友情や感謝の心を感じ取ります。

クラブ活動

本校ではクラブも、附高自治会の管理運営のもとにある、自主的組織で、その存続、新設、予算なども自治会の規定に従って審議、決定されます。多くの生徒が多様な活動をしています。

体育系クラブ	陸上競技	男子テニス	卓 球	文化系クラブ	吹奏楽	将棋同好会
	男子バスケットボール	女子テニス	水 泳		茶 道	
	女子バスケットボール	ワンダーフォーゲル	ダンス		小倉百人一首かるた	
	男子バレーボール	硬式野球	剣道同好会		クイズ研究	
	女子バレーボール	サッカー			地学統合理科研究	



討論宿で始まる附高生活

春の連休明けの5月、新入生は3泊4日の討論宿に出かけます。

本校の新入生宿舎は一般的な「オリエンテーション宿舎」とは異なり、内容は自己紹介やレクリエーションにとどまりません。目標はより深い、人格の陶冶にあります。

合宿の中心となるのは、全部で10時間におよぶ討論です。いくつかのテーマに対して真剣に意見をぶつけ

合って議論することで、知っていると思っていた友人に対しての、あるいは自分自身に対する見方を変え、新しい気持ちで高校生活を始めることになります。

討論宿は、これから始まる自治会活動にむけての訓練だけでなく、3年間の授業の基礎ともなる大切な行事です。生徒だけの手でもどこまでできるのか、いま自分たちに何ができていてこれから何が必要なのか、実感を持つことで諸活動に積極的に参加していくことを期待します。



制 服



進路指導

生徒一人一人がしっかりと将来の目標を持ち、そのために努力することをサポートするのが本校の進路指導の基本です。2年生の2学期には3年生での履修科目を決めますが、その時の成績だけではなく、本当にやりたいことは何か、しっかり自分を見つめながら考えさせます。目標のために何をすべきかを理解し、それに向けて最後まで努力するよう指導します。

高校での諸活動をすべておろそかにすることなく取り組み続けることが、目標への近道です。すべてのカリキュラムを通じて将来長く通用する力を育成し、自信を持って進路選択させることを、本校は目指しています。

主な進学先（令和8年度入試結果）

国立大学	東京 京都 大阪 神戸	公立大学	大阪公立 京都府立 兵庫県立 奈良県立医科大学 和歌山県立医科大学	私立大学	慶應義塾 東京医科 関西学院 関西医科大学 京都女子 大阪音楽	早稲田 上智 同志社 立命館 関西 大阪医科薬科 龍谷 同志社女子 近畿 関西外国語 大阪芸術	防衛医科大学校	海 外	Southern Utah University Universität Bonn
	名古屋 東北 京都工芸繊維								
	奈良女子 和歌山 岡山 広島								
	鳥取 徳島 宮崎 東京外国語 東京海洋 大阪教育 奈良教育								

卒業生からのメッセージ

「全力で挑戦できる場所」

皆さんは今、附高で何をすることを楽しみにしていますか？自治会活動、附高三大行事、部活動、研究活動など様々だと思います。附高のすべての活動において共通する特徴として「自由」という魅力があります。自由故に、附高には挑戦する場が多くあり、先生方も協力的で、生徒が考えたことを発言できる機会が多くあります。その一方で、責任や義務も生徒にあります。特に自治会や委員会の動きは全校生徒の活動に大きく影響します。多くのやりがいある活動の中で、ここでは私が参加した活動に限定して紹介します。附高祭は委員として、また、自治会執行部書記として関わりました。全学年が関わる行事の開催では、日程管理がとても大切で、6人ほどの

各部門の委員長、自治会執行部が協働しながら、委員会全体を管理して進めていく必要があります。そこに外部施設との手続きや先生方への説明、承認手続きなど厳密な期限のある仕事も多くあります。え、そんなことできるのかな？と思う人もいますが、多くの卒業生も最初は全く分からないところからのスタートでした。手を挙げて実際に委員会に参加し、過去の記録や先輩の経験を参考に考えて活動する中で2年生時には委員長などを務められるようになります。私が委員長として活動した研修旅行委員会では他の行事と全く違う課題が一つあります。それは現地に行けず、実際の流れや配置が読めないことです。まずこの課題を全体で共有して活動できるかどうかが大事です。そのうえで何をどうすればいいのか。また、

「自主自律」

附高を語る上で重要なキーワードの一つあります。それは「自主自立（律）」です。ここでは私自身の附高での二つの経験を取り上げながら附高での学びと、私が思う附高の「自主自律」とは何かをお伝えします。

一つ目は百軒徒歩です。附高の三大行事という附高祭、音楽祭、そして百軒徒歩の三つで、これを読んでいる皆さんの中にもこれらの行事に魅力を感じて附高への進学を考えた方もいらっしゃると思います。どの行事にも共通することですが、附高の自治会行事は生徒による自主運営が最大の特徴となっています。百軒徒歩ではコース案の策定、レスト地交渉や許可取り、二度の下

見を含めた本番の運営などを、生徒からなる有志および特別隊のみで行います。私は有志代表を補佐する役割として2年間運営に携わりました。その中で痛感したのが自主自律と相反するように思える規則やマニュアルの重要性です。100名以上の生徒と一晩中歩き続ける行事を高校生だけで安全に遂行するには、事前の準備が不可欠です。私自身本番で予期せぬアクシデントに見舞われた際に場当たり的に誤った判断をしてしまい周囲との

「自分になる」

附高は「自由」です。ただ、その自由は決して「楽」という意味ではありません。附高の自由は、自分で自分を形づくるためのものです。目的のわからない校則や、こなすだけで精一杯という課題はほとんどありません。だからこそ附高では、「何をするか」「どう過すか」を自分で考え、積極的に行動することが、そのまま三年間の充実度につながります。とはいえ、そんなことをいきなり言われても想像しづらくかもしれません。これを讀んで、少しでも附高がどんなところなのか、入学した時にはどんな生活を送れるのかを思い描いていただければ幸いです。

まず、附高にいと受け身ではられません。授業内外を問わず、自分の考えを求められる場面や、他者と意見を交わす機会が多くあります。考えることと伝えることの面白さ、そして難しさを実感することになると思います。はじめは苦労するかもしれませんが、自分の考えを持ち、それを言葉にする力は、確実に将来へとつながっていきます。

また、附高に通う人たちは、見た目も中身も本当にさまざまです。部活動に情熱を注ぐ人、志望校合格のために勉強に励む人、自分の将来や興味のために課外活動に取り組む人――本当に多種多様です。「そんな活動してたの!？」と驚かされることも珍しくありません。我が道を行く人が多いのも、この学校らしさだと思います。もちろん、絆や団結力がないわけではなく、むしろ行事等を通して、異なる個性を持つ人同士が自然と協力し合っているのも、この学校の特徴の一つです。ここで皆さんに勧誘してほしくないのは、最初から全員が確固たる自分を持っているわけ

「いい人に出会い、良い自分になる」

高校に何を求めるでしょうか。自由な校風や自主自立――本校にはさまざまな魅力があります。それは確かです。しかし、私がこの高校で心から良かったと感じるのは「人」です。私は将来、パイロットとして働くことを目標にしています。この夢は中学三年生の頃から抱いており、高校入学後も変わることはありませんでした。自分の夢を掲げ、それを認め応援してくれる仲間がえの学校にはいます。また、生徒一人ひとりがそれぞれの目標に向かって努力しており、その姿に刺激を受けながら自分自身も成長していくことができました。

世の中には、夢や目標を語ることをためらわせる雰囲気があるのも事実です。周囲と違う目標を持つことで、不安や迷いを感じることもあります。しかし、本校には、生徒だけでなく先生方も含め、目標を共有し、互いに支え合う温かな空気があります。そのような環境の中で、私は自分の夢と真剣に向き合い続けることができました。私自身、進路に悩んだ時期がありました。当初は日本の航空大学校への進学を考えていましたが、そのためには大学に進学してから受験が必要があり、夢までの道のりが遠く感じられるようになりました。目の前の大学受験に意識が向く中で、本来の目標が見え

（東京大学 理科一類）

全部の行事に共通する課題として、当日運営を行う委員も一回きりの行事を楽しむにはどうすればいいのか。ということがあります。みなさんは何が大事だと考えますか？ここでは附高生が考えている明確な答えのない問題を少しのぞき見ていただきました。1人でわからなくても、他者と議論する中でわかることもあります。是非、挑戦してみてください。

ここで、多くの人が入学前に考える悩みについて解答してみたいと思います。魅力的な委員会活動等しながら部活や勉強を両立させることはできるのか？私は必ずできると思っています。実際に多くの附高生は部活と委員会を両立させており、両立に対して先生含め全員が理解を持っています。そのため、委員同士での議論もオンラインや隙間時間に行うなどその点でも工夫が見られます。勉強に関しても、授業に加えて（他の活動ができない）家での時間や通学時間等を利用することで自分の目標を達成できます。また、特殊なカリキュラムが提供される附高に入学するのであれば、多数の学問分野に興味を持ち、多くの中学校、高校で行われる「受験勉強としての勉強」を超えた附高の「学び」の楽しさを求めているほしいです。その心構えを持つことで附高の授業が倍楽しくなるでしょう。

何事も両立して、全力で挑戦できる場が提供されているからこそ、大切なのは初めに挑戦的な姿勢を持つ勇気だけでなく、挑戦後には中学生の時の自分からは想像できないほどの成長をすることができます。勿論、ここで紹介した学内での活動以外の学外活動に参加し、その活動と学内活動を両立させる人もいます。多様な挑戦を認めてくれる附高という環境で、是非みなさんには自分の限界に挑戦してほしいです。

（東京大学 文科一類）

連携が上手くいかなかった苦い経験からこのことが身にしみてわかりました。次に研修旅行です。研修旅行も生徒による自主運営が基本で、私は生徒が自由に行きたい場所を決められる自由行動の運営を担当しました。広大な北海道で各生徒は異なるやりたいこと・行きたい場所がある一方、移動手段は数に限りのある貸し切りバスのみという中、どこまで生徒の要望を叶えられるか、どうバスの時程を組めば最大限実現できるかということを考えました。これは決して簡単なことではありませんでしたがとてもやりがいがありました。ここでも大事なのが、生徒の自由行動を可能にしているのはバスの時程や規則のような生徒自身で作ったルールに他ならないということです。

「自主自律」、それは確かに附高のアイデンティティです。しかしこれは決して附高が単に自由で何をしてもいい場所というわけではありません。重ね重ねになりますが自主自律を支えるのは紛れもなく規則やルールです。附高は自主自律以上にそれと表裏一体の関係にある規律や規則を生徒に考えさせる場だと感じています。私自身附高での経験を通して自主自律とは自分自身で考えながら積極的に動き、その結果に責任を持ちながらまた新たに考えを深め行動していくことだと学びました。ぜひ皆さんが附高に入学されたら附高ならではの「自主自律」にたくさん触れて実りある三年間を過ごしてください。

（京都大学 医学部人間健康科学科）

ではないということです。それどころか、多くの人が「まだ何者でもない」状態で入学してきます。今、やりたいことや将来の夢がありますか。胸を張って「これが自分だ」と言えるものはあるでしょうか。もしあるなら、その想いを思いきり書いてください。この学校には、それを誇ったり止めたりする人はいません。

もしまだないとしても、焦る必要はありません。附高には、自分で何かを始めたり、勉強以外の活動に挑戦したりできる環境があります。だからこそ、たくさん試して、迷って、自分の輪郭を見つけていってほしいと思います。

私自身も、入学当初は何がしたいのか、自分がどんな人間なのか分らないままでした。進路もなかなか決められませんでした。それでも、委員会活動や課外活動に挑戦する中で、少しずつ自分の軸を見つけることができました。他の学校では得られなかったであろう経験を重ね、多くの学びを得ることができたと感じています。私にとって、個人を尊重してくれる環境の下で、寛容な仲間と学生生活を共に過ごせたことは、本当に大きな財産です。

最後に、自由とは、「好きにしている」ということでもありますが、その本質は「自分で選び、その結果に向き合う」ということです。それは同時に、責任を引き受けるということでもあります。重いと感じるかもしれませんが、ですが、たとえ失敗しても、それは必ず自分の糧になります。これはただの綺麗ごとではなく、本当にそうなのです。あなたの失敗を馬鹿にしたり笑ったりするのは、この学校にはいません。ですから、安心して自由を満喫してほしいと思います。

附高での三年間は、自分という人間をつくる三年間です。ぜひ、その一歩をここから踏み出してみてください。

（Southern Utah University アメリカ合衆国）

にくくなり、思うように前に進めない時期もありました。高校三年生を迎えても進むべき道を定められず、暗転模索の日々が続きました。そんな中、海外の大学にも航空分野を専門的に学べる環境があることを知りました。海外では、パイロットに必要な知識や技能を体系的に学ぶことができるだけでなく、国際的に活躍するために不可欠な英語力も同時に高めることができるとわかり、新たな進路として強く惹かれました。周囲とは異なる選択に不安もありましたが、思い切って自分の考えを伝えると、仲間はそれを受け止め、前向きに応援してくれました。その言葉に支えられ、自分の決断に自信を持つことができました。

また、海外大学への出願は日本の大学とは異なり、多くの書類を英語で準備する必要がありましたが、先生方が一つひとつ丁寧に指導してくださり、最後まで寄り添ってくださいました。その結果、志望していた大学の希望する専攻へ進学することができました。この経験を通して、自分一人ではなく、多くの人に支えられて目標に向かって進んでいることを強く実感しました。

目標に向かい続けることができる環境の大切さを、この学校で学びました。その支えとなる「人」の存在こそが、本校の何よりの魅力だと思います。この学校で、その素晴らしさをぜひ実感していただきたいと思います。

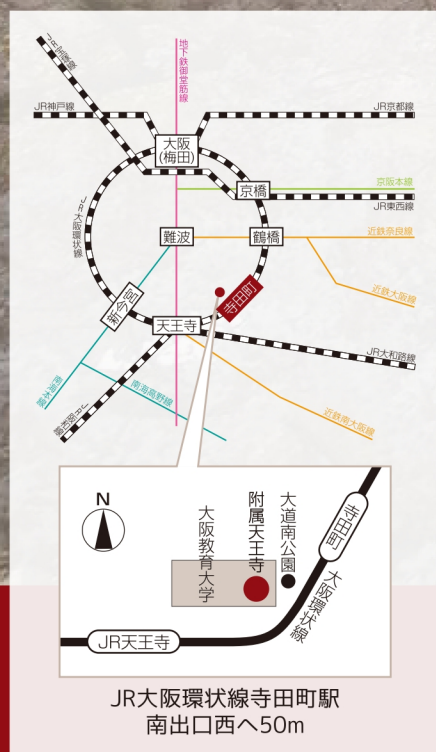
附高校歌

作詞／稲葉洋一

作曲／塩見直子

一、生駒山 はるかにのぞみ
希望の大空 雲はかがやく
高らかな 理想を抱き
いま青春の 夢を語ろう
誇りある 自由と規律
伝えゆく 叡智の学園を
いざ君と共に築こう
わが附高 附高天王寺

二、四天王寺 鐘の音きよく
難波の都 歴史はぐくむ
いにしへの 湊を訪ね
いま新しき 光燈そう
はてしなき 学問の思索
究めゆく 真理の航路を
いざ君と共に進もう
わが附高 附高天王寺



〒543-0054 大阪府大阪市天王寺区南河堀町4-88

TEL:06-6775-6047 FAX:06-6771-5151

<https://f.osaka-kyoiku.ac.jp/tennoji-h/>